

## シンフォニー

第12回日本慢性看護学会学術集会を多くの参加者をお迎えして終了することができました。ご参加下さいました皆様に改めて皆様に感謝申し上げます。正確な参加者数は現在、まとめているところですが850名程度になるとのことです。

多くの皆様にご参加いただき、〈紡ぐ〉ということを考えていました。

二日目にご講演いただきました末盛千枝子先生の最初の言葉が、今の自分がいるということは「命がつながっている」という言葉でした。この言葉を聴き、大会長を拝命する意味を実感しました。

本学会は慢性看護の体系化を目指し設立されました。歴代の理事長、理事の先生方、学術集会長の先生方が慢性看護の体系化を推進し、また、多くの学会員や学会に参加した皆様が検討し学びを深めてきました。

第12回である今回の学術集会も、〈慢性看護の知と技の伝承 語りからともに歩む看護を未来へ紡ぐ〉をテーマに、慢性看護の体系化の一端を担う道のりを多くの人々に支えられて歩んで参りました。

学術集会は、ポスターのイラストを担当してくださった櫻田耕司さんの『夏故郷（なつこきょう）』という曲のギター演奏から始まりました。この曲はHPの〈学会の見どころ〉のスライドのバックミュージックです。どこか懐かしく、心が落ち着くこの曲を皆さんと聞きたいと思い、櫻田さんに無理を言って出演していただきました。

大会長講演の冒頭、スライドの出し方を確認しておかなかったため、皆様にハラハラさせてしまいましたが、これもサプライズとなりました。

学術集会は、ご講演いただきました講師や座長の先生方、学会の企画、運営を支えてくださった、企画委員、実行委員、運営協力委員の皆様、企業の皆様、会場のTKPガーデンシティ品川の皆様の思いや力が共鳴して、シンフォニーとなっていく雰囲気を感じました。いろいろな困難や調和するにはどうしたらいいのだろうという時もありました。そんな時、知恵を出し、持ち場を乗り切ってくださいました。お一人お一人にお礼を述べたい気持ちでいっぱいです。

総勢、250名近い皆様のお力をお借りしました。

チームが出来上がっていくとは、こういうことかとも思いました。今回は櫻田さん、末盛先生、中村厚さん、音楽の村澤先生と出演者の皆様との出会いも豊さを増してくださいました。

末盛先生が、「雪が降っているのに春を感じる時があり、生きているとはそういうことなのかな」とおっしゃっていました。また、「人類はいろんな困難がある。だから深くなる」ともおっしゃっていました。

なんて深い思考なのかと心に刻んだ言葉です。

来年の第13回日本慢性看護学会は池田清子大会長のもと、＜地域のレジリエンスを高める慢性看護＞がテーマです。困難からの回復を看護がどう支援してきたか、またどう支援していくか、検討が深められる学会になるのではないかと期待でいっぱいです。

最後になりましたが、臨床家の東がこのように学術集会長を務めることができましたのも、東京都済生会中央病院の高木誠院長、樋口幸子看護担当副院長のご理解のもと、病院関係者の多くの皆様のご協力をえることができたからです。この場をお借りして深くお礼申し上げます。

本学術集会を支えてくださったすべての皆様に感謝して、大会長のKATARIの最後とさせていただきます。

2018年7月16日  
東めぐみ



2018年7月14日 TKP ガーデンシティ品川